



東京都のNPO法人

# 森吉山で体験ツアー メイン行事のブナ植樹 きょう最終日は山菜摘み

全国各地で森林・林業を通じて交流活動を行っている東京都のNPO法人・MORIMORINE

ツトワーク(山縣睦子代表)主催の「北秋田のブナ林を歩く」体験ツアーが3日から3日間の日程



ブナの苗木を植樹するツアーの参加者たち

で、北秋田市の森吉山麓(ろく)高原などを会場に始まり、4日は同高原でメインイベントのブナの苗木の植樹を行った。同法人は、森林・山村地区の全国の女性たちと都会の女性たちを中心に交流を進め、活性化を促進。豊かな森林の育成に寄与するとともに、山村

地区と都市地区による森林・林業を通じた交流活動や豊かな暮らしを創造する木の利用拡大に関する支援活動などを行っている。

今回の豊かな森をはぐくむ大地「北秋田のブナ林を歩く」体験ツアーは、国土緑化推進機構の「緑と水の森林基金助成

事業」を活用し、「帰ろう、心のふるさと森林へ」をテーマに開催したもので、主に関東方面の女性らを中心に約30人が参加した。

初日の3日は、内陸線の利用して阿仁合駅に集合した参加者たちが、森吉山阿仁スキー場のゴンドラに乗って広大な芽吹きのブナ林を一望、石森外輪山を散策したあと、マタギノの湯でマタギ語を聞きながら、郷土料理に舌鼓を打った。

翌4日は、ノロ川沿いのブナ林を散策し、郷土料理の昼食を楽しんだあと、「バースデーランド森吉山」と銘打った森吉山麓高原の植樹帯でブナの苗木の植樹が行われた。

参加者たちは全国植樹祭のマスケットで、現在は「県水と緑のマスケット」として活躍している「森つち」の出迎えを受けながら、木の枝やつるなどで組まれたアーチをくぐって会場入り。会場の中央には10歳ほどもあるブナのシンボルツリーが植えられており、参加者たちはその回

りに4、5年生のブナの苗木を一本ずつ丁寧に植え付け、自分の名前と誕生日を書いたカードを付けて「バースデー」とした。

東京都から参加の秦皓子さん(74)は北秋田の自然について「大好き。電車(内陸線)も素晴らしい。みんな大変しくなくて、みんな大変喜んでる」などと話し、ブナの植樹については「わたしは大きくなるのを見られないが、ずっと後の人たちのために大きく育ってくれるとうれしい」と語っていた。

最終日のきょう5日は、バースデーランド近くで山菜摘みを行い、山菜料理の昼食をとったあと、それぞれ陸路、空路で帰京する。